

# ふるさと奥尻通信

平成29年10月31日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

近世以降、日露両国の歴史は劇的で面白い。大黒屋光太夫、高田屋嘉兵衛、乃木希典、東郷平八郎、リヒャルト・ゾルゲ、岡田嘉子…国に翻弄された人々の姿が印象深い。

## 特集 奥尻と映画② おろしや国酔夢譚

奥尻と映画の第2回目は、島内で初めて大掛かりなセットを用いて、本格的なロケハンが行われた「おろしや国酔夢譚」を取り上げます。

平成2年(1990)春、大映映画(株)の桜井勉プロデューサーよりの電話で、ロケ候補地として奥尻があがりました。8月に下見をし、9月10日には佐藤純弥監督以下、美術監督や製作担当らが来島し、視察。その後、米岡地区の荒涼な砂浜である防風浜(通称ブ浜)がロケ地と決まり、撮影セットを建設することとなりました。

明けた平成3年、2月初旬より様々な準備が進められ、4月からの撮影スケジュールも示されて、地元でもロケ隊の受け入れ態勢が整ってきていました。ところが、3月14日になって外務省は、かねてより申請していたビザの発給を認めず、ソ連人俳優14名が来日できないという緊急事態が発生したのです。その理由として、当時奥尻には航空自衛隊のレーダー監視部隊(第29警戒群)と防衛部隊(第203基地防衛隊)が配備され、ソ連人が立ち入りできない地域である、というのが外務省の言い分でした。



緒方 拳(奥) ロケの合間



航行する神昌丸

これによりクランクインと奥尻ロケの延期が発表され、地元はすっかり落胆してしまいました。すでに「ブ浜」には総工費5,000万円もの撮影セットを建設していたため、無駄になっては元も子ありません。そうこうしているうち、一転、ここで朗報がもたらされることとなります。というのも、ちょうどソ連のゴルバチョフ大統領が来日するのを翌月に控えていたこともあり、二国の友好関係に水を差すことを避けたい外務省がビザ発給を認めたのです。映画関係者の陳情に対し、防衛庁も理解を示したとのこと。いよいよ3月末より先発隊が奥尻入りし、4月1日以降、緒方拳(53歳)や西田敏行(43歳)ら俳優陣も到着、奥尻を光太夫が漂着したカムチャッカ半島に見立て、総勢100名でのロケがスタートしました。

4月13日には歓迎パーティーが開かれ、監督以下俳優陣25名、町関係45名が参加し、食材は奥尻らしくアワビ200個、ホタテ、ツブ、ホヤ、イカ、カルビ肉などが用意されて盛大に行われました。

9月4日からは2期目のロケとして神威協港内外で乗船していた神昌丸が遭難するシーンを撮影しました。遭難シーンでは、クレーンで揺らされる船体に毎回4.5トンの海水を流し込んで臨場感を出したため、俳優陣も自然と迫真の演技となりましたが、擦り傷がつくほどの過酷なロケとなりました。収録には、地元からもエクストラが大勢参加し、本格的な映画収録の様子に驚くとともに貴重な体験となり、記憶に残ったことでしょう。その後は大きな映画ロケがないものの、テレビドラマ「オジロの海」(1990)や刑事ドラマ「はぐれ刑事純情派スペシャル」(2001)などが撮影されて、島民の話題となっています。

## ストーリー

天明2年(1782)、大黒屋光太夫ら17名を乗せた神昌丸は、江戸に向けて伊勢を出発した。途中、舵を失って漂流、ロシア領のアムチカ島に漂着した。多くの仲間を失いながらも帰国を目指してカムチャッカ半島に渡り、イルクーツクを経て大陸の西端セントペテルブルクで時の女帝エカテリーナ2世に謁見が叶う。果たして、帰国を願う光太夫の運命は…



西田敏行 ロケの合間 神威協漁港

## ☆クレジット☆

監督	佐藤純彌
脚本	野上龍雄
ロケ地	礼文島、奥尻島ほか
公開日	平成4年6月25日
上映時間	123分
動員数	不明
配収	18億円

## ○キャッチコピー○

ロシアで見てきたことは夢だったのかー  
鎖国の世に世界と出会った男がいたー  
大黒屋光太夫



荒天時の防風浜(ブ浜)

